

姫路工大理, 阪大理^A上田光一, 三品誠喜, 小原孝夫,
山本良之^A, 都 福仁^ANMR study of Ce(Ru_{1-x}Rh_x)₂Si₂ IIHimeji Institute of Technology, Osaka University^AK. Ueda, S. Mishina, T. Kohara, Y. Yamamoto^A and Y. Miyako^A

CeRu₂Si₂ は典型的な重い電子系物質としてさまざまな研究が行なわれている。この物質中の Ru を Rh で置換して作製した Ce(Ru_{1-x}Rh_x)₂Si₂ は x の増加に伴ってフェルミ液体、SDW、常磁性、反強磁性、非フェルミ液体と多様な物性を示す。x=0.03 の試料は 0.1K 以上では常磁性、x=0.05 の試料は 2.0K で SDW 転移を起こすと見られている。

前回、Si NMR の T_1 の結果を報告した。さらに詳しく T_1 を測定した結果、x=0.03, 0.05 のいずれの試料についても磁氣的相転移に関連すると思われる T_1 の発散は見られなかった (図 1)。

今回、Ru の NQR 測定の結果を報告する。x=0.05 の試料での NQR スペクトルは、低温で SDW 転移に対応する幅の広がりを示す一方、x=0.03 では大きな幅の変化は無い。学会では Ru の T_1 の結果も合わせて報告する予定である。

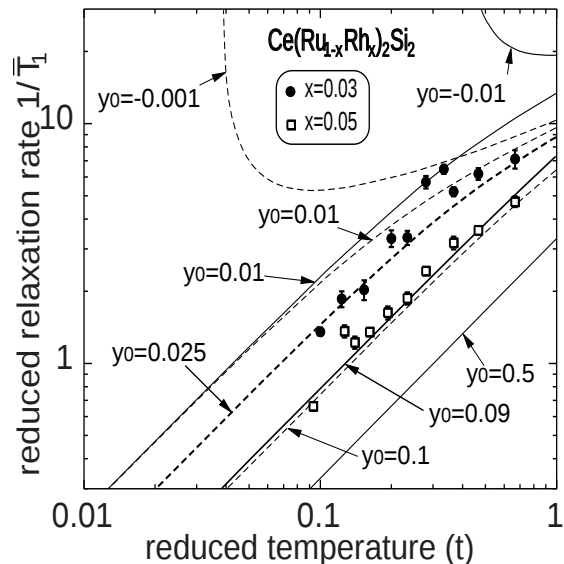


図 1

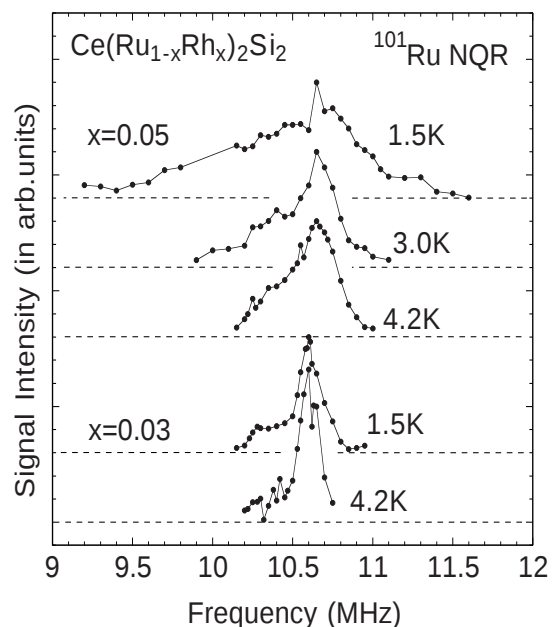


図 2